資料５

前回からの修正点

修正前	修正後（案）
Ｐ．７ 保護者が「自分の話をまじめに聞いてくれないこと」や「自分をけなしたり、ばかにしたりすること」があると回答した子どもは、「ない」と回答した子どもに比べ、自分のことが好きだと思うと回答する割合がいずれも低くなっており、保護者の態度が子どもの自己肯定感に影響を与えていることがうかがえる結果となりました。	保護者が「自分の話をまじめに聞いてくれない」、「自分をけなしたり、ばかにしたりする」と回答した子どもは、自分のことを「好きではない」と回答する割合が高くなっており、保護者の態度が子どもの自己肯定感に影響を与えていることがうかがえる結果となりました。
Ｐ．８ 様々な場面で自分の考えや意見を「言うことができる」と回答した子どもは、「言うことができない」と回答した子どもと比較して、「自分のことが好きだと『思う』」と回答する割合がいずれも高くなっています。特に「家庭」や「学校」など、子どもに最も身近な環境において、子どもが自分の考えや思いを言うことができると感じるか否かが子どもの自己肯定感に影響を与えていることがうかがえる結果となりました。	様々な場面で自分の考えや意見を「言うことができる」と回答した子どもは、「自分のことが好き」と回答する割合が高くなっています。特に「家庭」や「学校」など、子どもに最も身近な環境において、子どもが自分の考えや思いを言うことができると感じるか否かが子どもの自己肯定感に影響を与えていることがうかがえる結果となりました。
Ｐ．12 家庭や学校、地域、市政において、子どもが意見を言ったり、行事などの企画運営に主体的に関わることについて肯定的に捉える大人が多い一方で、子どもについては、実際に「言うことができる」と答えた割合は前回調査よりは増加しているものの、大人と比較すると高くはないのが現状です。	家庭や学校、地域、市政において、大人の回答では、子どもが意見を言ったり、行事などの企画運営に主体的に関わることを肯定的に捉えているにもかかわらず、実際に「言うことができる」と答えた子どもの割合は、前回調査よりは増加しているものの、高くはないのが現状です。
Ｐ．13 子どもには、いじめや児童虐待などから守られる権利があるということや、子どもは一人の人間として尊重される権利があるということを、全ての市民が理解するとともに、お互いの違いを認め、尊重しあい、子どもの権利の侵害を未然に防ぐ環境づくりを、行政のみならず、市民が一丸となって取り組むことが重要な課題です。	子どもには、いじめや児童虐待などから守られる権利があるということや、子どもは一人の人間として尊重される権利があるということを、全ての市民が理解するとともに、お互いの違いを認め、尊重しあい、子どもの権利の侵害を未然に防ぐ環境づくりを、行政のみならず、市民が一丸となって取り組むことができるよう環境を整えることが重要な課題です。